

タイトル「2023年度大学院危機管理学研究科(公開用)」、フォルダ「大学院危機管理学研究科」シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	危機管理学研究演習 I		
担当教員	上野 幸彦		
対象学年	1年,2年	開講学期	前期
曜日・時限	金 4		
講義室		単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	統合演習		
科目中分類	Mシリーズ		
科目小分類	4統合・演習		
科目の位置付け(開発能力)	<p>■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP2 [学識・専門技能] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能 (25%)</p> <p>DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力 (50%)</p> <p>DP4 [主体性・多様性・協働性] 多様な価値観や立場を尊重しつつ、自らの明確な考えをもとに、他者とコミュニケーションを確立する能力 (25%)</p>		
教員の実務経験	特になし		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	<p>危機管理学とその基礎となる法学に関する研究活動を実践するために、必要な社会科学的研究手法を学び、学生が自らテーマを設定し、論文を執筆し、成果を発表するための指導を行う。本演習では、危機管理学、法学に関する研究手法の修得、テーマの探求、先行研究の評価、資料の収集とテキスト分析を含む基礎的研究プロセスを扱う。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力、更には主体性・計画性・協働性等の汎用的能力を開発することを目的とする。</p> <p>授業形態は、演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>(キーワード) ・比較刑法、刑事法学とグローバリゼーション</p>		
授業の趣旨	<p>■副題 21世紀の刑事法学</p> <p>■授業の目的 グローバル化やリスク社会といわれる状況の中で、刑事法学も大きな転換期を迎えています。こうした状況について理解するとともに、比較法的観点から現状を的確に分析し、批判的に考察する能力を養成することを目的とします。</p> <p>■授業のポイント 日本の刑法はドイツをモデルにしています。そのドイツにおける比較刑法学の研究を参照することを通じて、日本の場合と比較・対照させながら、異同について検討し特徴等を明らかにします。比較法という観点から、客観的・批判的に日本の状況について分析することが可能となり、今後の課題について考察し展望を得ることができます。受講者は、比較法という研究手法について理解し、それに基づいた研究を行う能力を身につけることができます。</p>		
総合到達目標	■比較法という研究手法について理解し、それに基づいた研究を行う能力を身につけること。		
成績評価方法	<p>■授業内のレポート：2回 (60%) (評価の観点) 授業内容を踏まえ、与えられたテーマに対して、的確かつ論理的に答えているかどうかを評価します。 適用ルーブリック：E1 (30%)、F1 (10%)、F2 (10%)、H1 (20%)、H2 (10%)、I1 (10%)、I3 (10%) (フィードバックの方法) 授業中に説明する</p> <p>■ミニレポート(レポート形式によるリアクションペーパー)：4回 (40%) (評価の観点) 講義内容を踏まえ、与えられた設問に対して、的確かつ論理的に答えているかどうかを評価します。 適用ルーブリック：E1 (30%)、F1 (10%)、F2 (10%)、H1 (20%)、H2 (10%)、I1 (10%)、I3 (10%) (フィードバックの方法) 授業中に説明する</p>		
履修条件	特になし		
履修上の注意点	特になし		
授業内容	回	内容	
	1	<p>①授業テーマ ガイダンス (全体テーマおよび進め方の説明)</p> <p>②授業概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法そしてこの授業の進め方について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする (適用ルーブリック-E1：60%、I1：20%、I3：20%)。</p> <p>③予習 (120分) シラバスの内容を事前にチェックしたうえで、本授業でテキストとして使用するウルリッヒ・ズィーパー著/甲斐克則・田口守一監訳『21世紀刑法学への挑戦—グローバル化情報社会とリスク社会の中で—』(早稲田大学比較法研究所・2012年)を準備する。</p> <p>④復習 (120分) この授業の学修内容と目的を確認し、自分の研究計画における活用について検討する。</p>	
	2	<p>①授業テーマ マックス・プランク外国・国際刑法研究所における新たな研究プログラム</p> <p>②授業概要</p>	

	<p>グローバル化する世界的傾向の中で、ドイツのマックス・プランク外国・国際刑法研究所における比較法研究の取組みについて概観し、比較法研究の対象・枠組みについて学ぶ（適用ルーブリックE1：50%，F1：20%，F2：10%，I1：20%）。比較法研究がどのように行われているのかを理解し、その方法について説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第1部第1章を通読する。</p> <p>④復習（120分） ドイツのマックス・プランク外国・国際刑法研究所における新たな研究プログラムの試みが行われた背景についてまとめる。</p>
3	<p>①授業テーマ 「刑法の限界」（1）</p> <p>②授業概要 テキスト第1部第1章「刑法の限界」の前半部分について、受講者による要旨発表に基づいて、ポイントを整理したうえで、ここでの議論について、日本の状況と比較しながらディスカッションを行い、日独の共通性と相違点について検討します（適用ルーブリックE1：30%，F1：20%，F2：20%，H2：20%，I3：10%）。比較刑法の観点から、日独の状況について説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第1章中、3－50頁の部分について事前に精読し、その要旨をペーパーにまとめる。</p> <p>④復習（120分） 刑法の限界に関し、ドイツでの議論について整理する。</p>
4	<p>①授業テーマ 「刑法の限界」（2）</p> <p>②授業概要 テキスト第1部第1章「刑法の限界」の後半部分について、受講者による要旨発表に基づいて、ポイントを整理したうえで、ここでの議論について、日本の状況と比較しながらディスカッションを行い、日独の共通性と相違点について検討します（適用ルーブリックE1：30%，F1：20%，F2：20%，H2：20%，I3：10%）。比較刑法の観点から、日独の状況について説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第1章中、51－81頁の部分について事前に精読し、その要旨をペーパーにまとめる。</p> <p>④復習（120分） テキスト第1章全体について、日本の状況と比較し、日独の共通性と相違点についてまとめる。</p>
5	<p>①授業テーマ EU刑法</p> <p>②授業概要 ドイツ国内刑法とEU法との関係について、EUにおける条約法と各国法との構造を踏まえながら分析し、両者の相互関係・作用を明らかにします。（適用ルーブリックE1：30%，F1：20%，F2：20%，H2：20%，I3：10%）。EU法とドイツ法との関係について理解し、説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第2部第2章を通読する。</p> <p>④復習（120分） EU域内での法の仕組みについて再確認する。</p>
6	<p>①授業テーマ 「ヨーロッパ刑法の将来」</p> <p>②授業概要 ヨーロッパ刑法の状況に関し、テキスト第Ⅱ部第2章について、受講者による要旨発表に基づきながら、ヨーロッパ刑法の動向と日本の動向とを比較しながらディスカッションを行い、EUおよび日本の刑法に関する展望に関して検討を行います（適用ルーブリックE1：30%，F1：20%，F2：20%，H2：20%，I3：10%）。ヨーロッパにおける刑法の動向について説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第2部第2章を精読し、その概要をペーパーにまとめる。</p> <p>④復習（120分） ヨーロッパ刑法と日本の刑法の動向とを比較し、両者の共通性と相違点についてまとめる。</p>
7	<p>①授業テーマ 国家間における刑法の共通化について</p> <p>②授業概要 EU域内での法状況も踏まえながら、国際的な刑法の共通化現象について考察します（適用ルーブリックE1：30%，F1：20%，F2：20%，H2：20%，I3：10%）。刑法の国際化の背景について説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第2部第3章を事前に読む。</p> <p>④復習（120分） 国際条約への対応のための日本での刑事立法の整備状況について整理する。</p>
8	<p>①授業テーマ 「刑法調和化の背後にある力」</p> <p>②授業概要 ヨーロッパ各国の刑法の共通化という状況に関し、テキスト第Ⅱ部第3章に依拠しながら、受講者による要旨発表に基づいて、その背景について考察します。ヨさらに、日本の場合との比較検討をテーマにディスカッションを行います（適用ルーブリックE1：30%，F1：20%，F2：20%，H2：20%，I3：10%）。刑法の国際化の背景について説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第Ⅱ部第3章を精読し、その概要をペーパーにまとめる。</p> <p>④復習（120分） 国際化の背景について整理して分析する。</p>
9	<p>①授業テーマ 比較刑法の状況の変化</p> <p>②授業概要 リスク社会といわれる社会状況やグローバル化によって、国内外の社会環境は大きく変化しています。こうした状況の変化は比較刑法の分野においても強いインパクトをもたらしています。この点について検討し、今日の比較刑法の様相について理解します（適用ルーブリックE1：30%，F1：20%，F2：20%，H2：20%，I3：10%）。これにより、今日の比較刑法の特徴について説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第Ⅱ部第4章を事前に読む。</p> <p>④復習（120分） 今日における特徴的な事情と比較刑法の変化の状況について整理する。</p>

10	<p>①授業テーマ 「変わりゆく比較刑法」</p> <p>②授業概要 EUと各国における刑法の変化について、テキスト第Ⅱ部第4章に依拠しながら、受講者による要旨発表に基づいて、その様相を概観するとともに背景について考察します（適用ルーブリック-E1：30%、F1：20%、F2：20%、H2：20%、I3：10%）。これにより、今日の比較刑法の特徴について説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第2部第3章を精読し、その概要をペーパーにまとめる。</p> <p>④復習（120分） 比較刑法の変化の特徴についてまとめる。</p>
11	<p>①授業テーマ 「テロによる暴力の全段階における危険化犯の正統性と限界」</p> <p>②授業概要 ドイツ等におけるテロ対策としての幅広い犯罪化について、テキスト第Ⅲ部第5章に依拠しながら、受講者による要旨発表に基づいて、その特徴と問題点について考察します。さらに、日本の場合との比較検討をテーマにディスカッションを行います（適用ルーブリック-E1：30%、F1：20%、F2：20%、H2：20%、I3：10%）。</p> <p>③予習（120分） テキスト第Ⅲ部第5章を精読し、その概要をペーパーにまとめる。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、情報の法的保護とサイバーセキュリティの関係について、自分なりの説明をまとめる。</p>
12	<p>①授業テーマ 「企業刑法におけるコンプライアンス・プログラム」</p> <p>②授業概要 企業活動におけるコンプライアンスに関連して、ドイツにおける刑事規制とコンプライアンス・プログラムに関する状況と議論について、テキスト第Ⅲ部第6章に依拠しながら、受講者による要旨発表に基づいて検討します。さらに、日本の場合との比較検討をテーマにディスカッションを行います（適用ルーブリック-E1：30%、F1：20%、F2：20%、H2：20%、I3：10%）。企業コンプライアンスと刑法の関係について理解し、説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第Ⅲ部第6章を精読し、その概要をペーパーにまとめる。</p> <p>④復習（120分） コンプライアンスと刑法の関係について整理する。</p>
13	<p>①授業テーマ サイバースペースにおける刑事規制</p> <p>②授業概要 ドイツ刑法はコンピュータ犯罪関連の処罰規定と関連させつつ、サイバースペースにおける犯罪化の規定を整備してきました。このような処罰規定の導入について確認し、日本における法の整備状況と対比させながら考察することにします（適用ルーブリック-E1：30%、F1：20%、F2：20%、H2：20%、I3：10%）。サイバースペースにおける刑事規制の拡大について理解し、説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第Ⅳ部第8章を事前に読む。</p> <p>④復習（120分） サイバースペースにおける刑事規制の特徴・傾向についてまとめる。</p>
14	<p>①授業テーマ 「グローバルなサイバースペースにおける複雑性の統御：コンピュータ関連刑法の調和化」</p> <p>②授業概要 サイバー空間における刑事規制に関連して、テキスト第Ⅲ部第8章に依拠しながら、受講者による要旨発表に基づいて、ドイツの状況を中心に検討します。さらに、日本の場合との比較検討をテーマにディスカッションを行います（適用ルーブリック-E1：30%、F1：20%、F2：20%、H2：20%、I3：10%）。サイバースペースにおける刑事規制の拡大について理解し、説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキスト第Ⅳ部第8章を精読し、その概要をペーパーにまとめる。</p> <p>④復習（120分） サイバーセキュリティと刑法との関係についてまとめる。</p>
15	<p>①授業テーマ まとめ</p> <p>②授業概要 ドイツ刑法とEU刑法との比較法的な、また多面的な考察を踏まえつつ、授業全体を通じて日本法との比較について総括的に考察します（適用ルーブリック-E1：30%、F1：20%、F2：20%、H2：20%、I3：10%）。比較法という手法に基づく研究について理解し、その利用の意義や方法について説明することができます。</p> <p>③予習（120分） テキストを読み直し、比較刑法を通じて明らかとなる今後の展望について考える。</p> <p>④復習（120分） 授業の内容を振り返り、自分の考えを再検証するとともに、今後の研究方針について考える。</p>
関連科目	犯罪・刑事司法特講（R5MR0022）、社会安全・治安維持特講（R5MR0021）、テロリズム対策特講（R5MR0023）
教科書	ウルリッヒ・ズィーパー著/甲斐克則・田口守一監訳『21世紀刑法学への挑戦—グローバル化情報社会とリスク社会の中で』（早稲田大学比較法研究所・2012年）
参考書・参考URL	
連絡先・オフィスアワー	開講時にお知らせします。
研究比率	法学80% 危機管理学20%

